



鮮やかな刺繍が美しい中国伝統衣装



横浜ユーラシア文化館 15 周年機関連誌へ掲載された



華僑の古い伝統衣装を 横浜ユーラシア文化館・神戸華僑歴史博物館へ寄贈

第二回横浜華僑写真真展を開催した際、

懐かしい写真が新聞に掲載され、それを目にした横浜華僑から、家族の遺品である古い中国服を匿名で會館へ寄贈したいという申し出がありました。寄贈品は男性用コート（内側が毛皮や女性・子供用の中国服等全12点。状態も大変良くご家族が大切に保管されていた様子が伺われました。品物は所蔵者の曾祖父と母親の遺品との事。『多くの方に見ていただく機会があれば…』という所蔵者のご意向を考慮し、品物は會館から二団体への寄贈を決定しました。所蔵者の祖父は神戸華僑で鮑や海産物等の貿易で財を成した方とのことで、一部は神戸の華僑歴史博物館（兵庫県立大学・陳来幸教授）へ、母親の品は横浜華僑ということで、横浜ユーラシア文化館（副館長・伊藤泉美）へ寄贈させていただきました。早速横浜ユーラシア文化館の15周年機関連誌へ掲載され紹介されました。



祖父百年前の毛皮のコート



4月5日今年も清明節の團拜が無事執り行われました。團拜の後、陳直前會長宅で花見會が開催され會員同士、和氣藹々楽しい歓談で盛り上がりました。

清明節と花見會

發展会より感謝状

5月31日、廣東獅子團は横浜中華街發展会協同組合より、春節行事において卓越した獅子舞でお客様に感動を与えとともに、中華街への誘客、伝統文化への継承に大きく貢献した事を評価され、感謝状が授与されました。



横浜中華街發展会：李理事長と周慶錦會長

廣東獅子團

活・動・報・告

5月26・27日、第一回全日本中国獅子舞大会が横浜中華街パーキング特設会場で行われ、廣東獅子團も参加させて頂きました。残念ながら優勝は逃したものの大会テーマの『喜怒哀楽』をうまく表現できたと思います！審査は会場のお客様が投票で決めるという企画で、全国から選りすぐりの中華獅子が登場しました。ネットでも演技が公開されていますので、どうぞご覧下さい。



8月5日（日）廣東獅子團は関帝誕のパレードに参加させていただきました。沿道にはたくさんのお客様も訪れ、とても賑やかにお祝いできました。11月のきともん祭に今年も出演しますので、皆様是非応援よろしくお願いします。副團長 渡邊大修

お母様の思い出は？

私の母は父と香港で御見合いをして結婚を機に来日し、来た時は日本語が全く喋れませんでした。両親と喋るときや家庭では廣東語で会話していました。私の母の記憶は：『家事を何もしない母親でした。（笑）食事も作らないし、家の事も何もしない人でした。子育ては私たち兄弟一人一人にそれぞれ乳母がついていて小学生の半ばまで位かな：自分の事ができるようになるまで乳母に育てられました。食事の支度はお手伝いさん、もしくは料理好きだった父が作っていました。そんな母ですが、印象に残っているのは年に一回だけ大晦日に関帝廟に奉納するお供えは毎年欠かさず作っていました。夜11時頃から作りだし、家族全員でお参りに行った記憶があります。家事をしない母は日頃何をしていたかという：ずっと麻雀です（笑）しかもコックさんたち男性に混ざり要明鶴、コッククラブや三江公所などに行つて、家に帰ってくるのは夜の食事の時だけ：他は中華街の友達とおしゃべりしているか、という母でした。どちらかというと麻雀をしている方が多かったかな？（笑）

した：。あと母は燃える前の（火災事故にあう前）関帝廟の世話役で役員をやっていました。当時は事務局などありませんでしたので、廟には留守番の人が居てうちの母と何人かで、管理していたようです。またお墓（中華義荘）の方も、一生懸命やっていたようです。街の活動では婦女会横浜自由華僑婦女協会で龐さんお母さんが会長、母が副会長をやっていましたね。

母の凄いところは、香港でいきなり車を買って帰ってきたりして。（笑）私が小学校1年の時に当時としては珍しい外国車に乗って銀座の明治屋に買い物に行ったのを憶えています。外国人しか店に入れないそんな時代でした。あと母は中国から来た子供たちを何人か家に引き取り、家族同様一緒に生活し、世話をしていました。あの時代は今に比べて華僑がお互いに助け合いながら、この街で生活していたんですね。そしてまたいろんな人を受け入れられる寛容な時代でした：。



ヴァイオリンが趣味だった父：梁兆華

インタビュの続きは次号冬号でお伝えします。どうぞお楽しみに！



山下町154番地：父が経営する平閣安前にて



山下町164番地：旧會館前にて



母：梁李蓮



山下町187番地郵便局前：梁家族